

取 扱 説 明 書

プラグイントランスデューサ

セルシントランスデューサ

STP1

このたびは、当社の製品をお買い上げいただき、誠にありがとうございます。
この取扱説明書は、本製品を正しく取り扱っていただくために必要な事項について記載されていますので、ご使用前に必ずお読みください。

安全上のご注意

■ 使用環境条件

本製品は下記の条件を満たす環境でご使用ください。環境条件を満たしていない場合、誤動作や故障、性能や寿命を低下させるおそれがあります。

- 周囲温度-10～+55℃、湿度 30～85%RH の範囲内の場所
- ほこり、腐食性ガス、塩分、油煙の少ない場所（腐食性ガス：SO₂ / H₂S など）
- 振動や衝撃のない場所
- 外来ノイズの少ない場所
- 標高 1000m 以下の場所

■ 屋外盤での使用条件

屋外盤で使用する場合、下記の事項にご注意ください。

- 本製品は、防塵、防水、防滴構造ではありません。塵埃の発生する場所は避け、雨や水滴が直接当たらない場所に設置してください。
- 直接日光が当たる場所には設置しないでください。本製品に直射日光が当たりますと銘板の変色及び劣化することがあります。また、表面の温度上昇によりケースが変形する恐れがあります。

■ 取付・接続

取付や配線を行うときは取扱説明書を参照のうえ、下記注意事項を守り専門技術を有する人が行ってください。



注意

- 結線は結線図を確認のうえ、行ってください。不適切な結線は機器の故障や焼損、火災の原因となります。
- 活線作業は禁止してください。感電・機器の故障・焼損・火災・ガスなど爆発の原因となり大変危険です。
- 通電電流に適したサイズの電線を使用してください。不適切な電線の使用は火災のおそれがあります。
- ねじの締付け後、締付け忘れがないことを確認してください。緩んだ状態は火災、誤動作の原因となります。

■ 保守・点検

- 通電中の点検は、危険ですので行わないでください。
- 定期点検における交換部品はありません。
- 活線状態でやむを得ず出力を点検する際は、入力及び補助電源端子に出力配線及び人体が触れないように注意してください。（電圧出力は短絡しないでください。電流出力は、オープンになると約 15V の電圧が発生します。）
- 清掃する場合、乾いた柔らかい布などで軽く拭き取ってください。
アルコールなどの有機溶剤や化学薬品、クリーナーなどは使用しないでください。

■ 保管

長期間保管する場合は、下記のような場所で保管してください。

- 周囲温度-40～+70℃の範囲内の場所
- 日平均温度が 40℃を超えない場所
- ほこり、腐食性ガス、塩分、油煙の少ない場所
- 振動や衝撃のない場所
- 製品にアルミ電解コンデンサを使用していますので、ご購入後なるべく 1 年以内に電源通電をしてください。

■ 故障時の処置

故障の場合は原則、現品を引き取り修理することになります。

■ 廃棄

本製品を燃やしますと、環境に悪影響を与えます。本製品を廃棄する場合は一般産業廃棄物（不燃ゴミ）としてください。
本製品には水銀部品、ニッカド電池は使用していません。

■ 保証期間

保証期間はご注文主のご指定場所に納入後一年と致します。

目 次

安全上のご注意 1

1. 製品概要 3

2. 取扱説明

2.1 外形寸法図 3

2.2 取付け時の注意事項 3

2.3 組合せ取付け寸法例 3

2.4 取付け 4

2.5 結線図 5

2.6 結線時の注意事項 5

2.7 取扱説明 5

2.8 電源投入及び遮断時の注意 5

2.9 校正 6

3. 動作原理

3.1 構成図 8

3.2 動作説明 8

3.3 入力・出力関係グラフ 8

4. 仕様及び性能

4.1 仕様 9

4.2 形名指定事項 9

4.3 性能 10

4.4 ノイズ耐量 10

4.5 用語 10

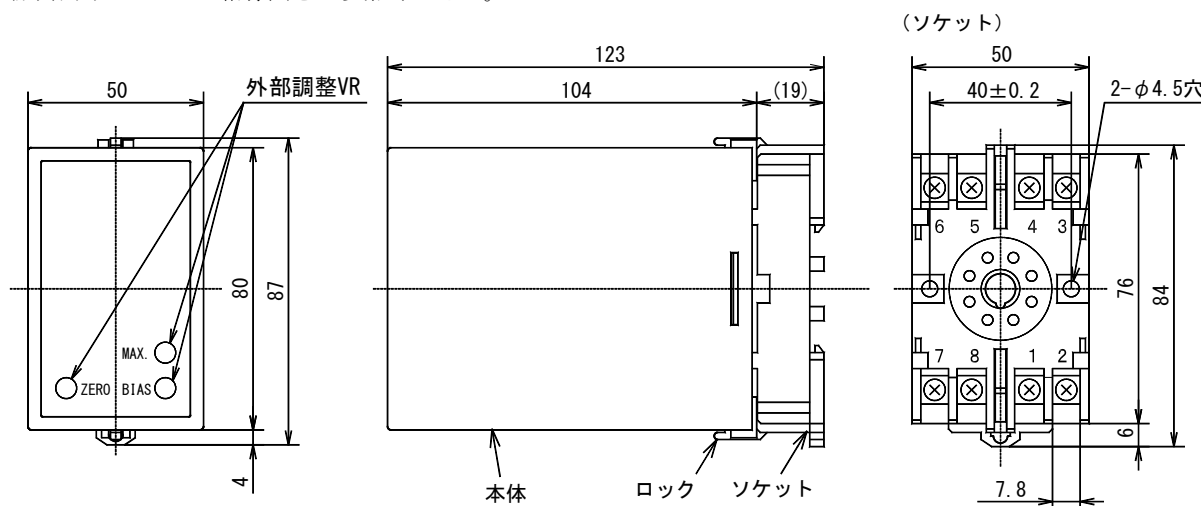
1. 製品概要

本製品は、セルシンと接続して、セルシン発信機の回転角度や位置の変位を、直線性の良い直流信号に変換するプラグインタイプのトランスデューサです。

2. 取扱説明

2.1 外形寸法図

端子配列については結線図をご参照ください。



2.2 取付け時の注意事項

取付けに際し設置場所の環境条件は機械的振動、塵埃及び腐食性ガスが少なく、また、付近に大電流母線や可飽和リアクトルなどによる強電磁界の影響がない屋内を選定してください。

製品の寿命は周囲温度により影響を受けますので、高温多湿な場所への設置は避けてください。

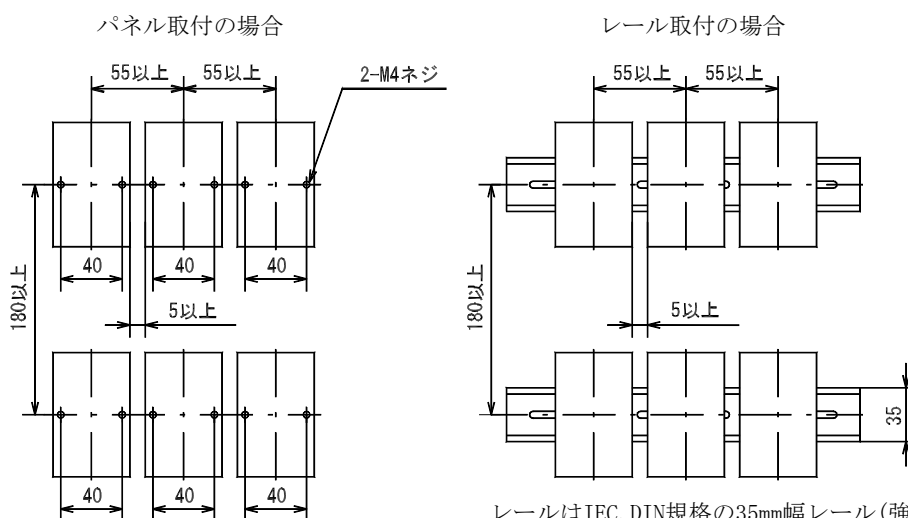
取付け姿勢は特に制限はありません。

取付け方法は35mm幅DINレールによる取付けとねじによる取付けが選択できます。

ねじ取付けの場合、M4ねじで取付けてください。(ただし、ねじは付属しておりません。また、ねじの締付けトルクは1.0～1.3N・mとしてください)

横並び相互間隔及び上下間隔は放熱と配線スペースを考慮し、2.3項「組合せ取付け寸法例」以上の空間を設けてください。端子裸充電部と周囲の金属パネルとの空間距離は10mm以上確保してください。

2.3 組合せ取付け寸法例 (単位 mm)



レールはIEC, DIN規格の35mm幅レール(強化型)をご使用ください。

空気の自然対流による放熱を考慮して上記以上の空間距離を設けてください。

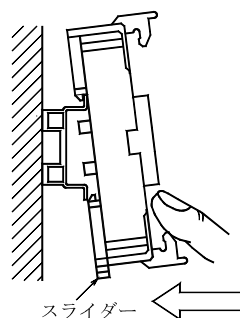
2.4 取付け

2.4.1 DIN レールとの着脱方法

〈注意〉 本体部をソケットから取外し又は取付けの際、危険防止のため必ず入力信号を遮断してから実施してください。

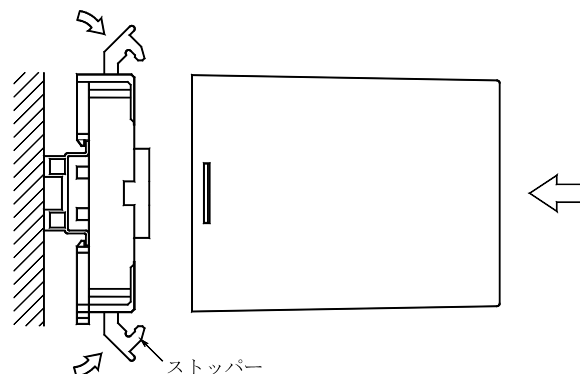
(1) ソケット固定方法

ソケット底面のスライダを下側にして、爪をレールに引っ掛けてから、ソケット下部を図の矢印方向に押し込んで固定してください。



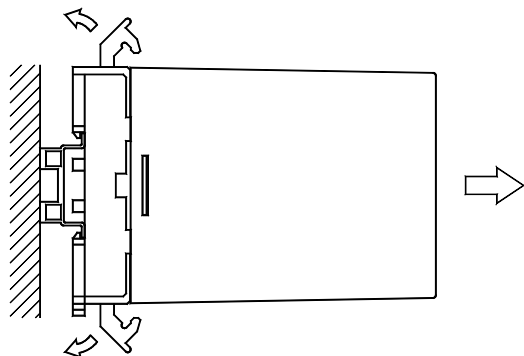
(2) 本体とソケット固定方法

本体のラベルの文字が正しく読める方向にして、まっすぐ差し込み、奥まで差し込んだ後にソケットについている黄色いストッパーで本体を固定してください。



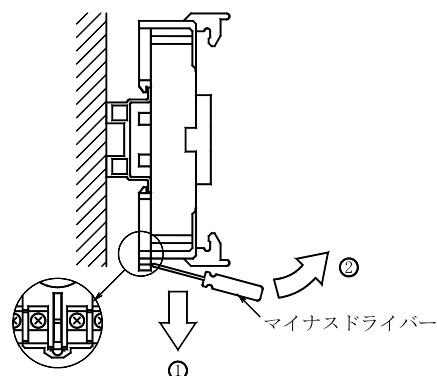
(3) ソケットから本体を取り外す方法

ストッパーを外し、本体をまっすぐ手前に引き抜いてください。



(4) ソケットを外す方法

ソケットのスライダの溝にドライバーを差し込み、図の矢印方向に引きながらソケット下部を手前に引いて外してください。



〈注意〉

本体を斜めに抜き差しすると端子が曲がり、ソケットとの接触不良などの障害の原因となります。

2.4.2 ねじによる取付け

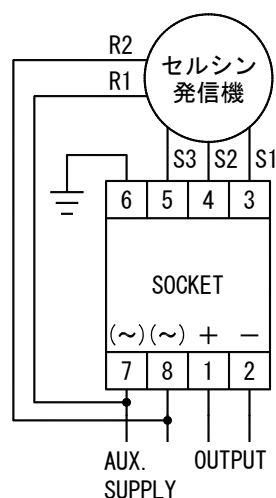
ソケットのストッパーを外し、本体をまっすぐ手前に引き抜いてください。

ソケットをM4 ねじで取付け、配線後に本体を取付けてください。

(ただし、ねじは付属していません。ねじの締付けトルクはM4：1.00～1.30N・m)

2.5 結線図

配線は「安全上のご注意」を参照し、結線図に従い正しく結線してください。



2.6 結線時の注意事項

トランスデューサの出力を直接遠方へ送る際、伝送線路に誘導雷サージなどの影響を受ける恐れのある場合でも、本器には保護回路が内蔵していますので、本器出力側への保護は不要です。
 なお、受信器側の機器を保護するために線間サージ保護器及び伝送線路と大地間に 500V 程度のアレスタなどを受信機器側へ設置してください。入力と出力の配線を分離し、ノイズに対する配慮を実施してください。
 また、ノイズ源となる電力線及び急峻な電圧、電流がある線とはできるだけ離してください。
 特に、ノイズの著しい環境下に於いてはシールド線をご使用ください。
 端子ねじの締付けトルクは M3.5 ねじで 0.7～0.9N・m です。

2.7 取扱説明

- (1) 出力負荷は銘板表示負荷抵抗範囲内でご使用ください。
 負荷抵抗値の範囲を超えた場合は、誤出力となるばかりでなく本製品に負担がかかります。
 特に、電圧出力における出力短絡はできるだけ短時間に正常に戻してください。
 電流出力については出力オープンで使用しても、本製品が破損することはありません。
 (ただし、電流出力オープン時、端子電圧が約 24V 発生します)
- (2) 出力外部調整は BIAS：定格出力値の±5%、MAX.：出力値の±5%調整可能です。
 接続機器とのマッチングなどで調整が必要な場合のみご利用ください。
 調整には 2.3mm プラス又はマイナスのドライバーを使用してください。
 調整用 VR は強く回さないようにしてください。無理に回しますと破損し正しい計測ができなくなります。
- (3) 定電圧出力は負荷抵抗範囲より抵抗値が小さい場合又は、定電流出力では負荷抵抗範囲より抵抗値が大きい場合に、著しい誤差を発生しますので、接続ケーブルを含めて負荷抵抗範囲内でご使用ください。

2.8 電源投入及び遮断時の注意

本製品は、集積回路 (IC) を使用していますので、電源投入時及び遮断時 (約 2～3 秒間) に内部供給電源が確立しない状態では IC が不安定動作領域となるため、入力に関係なく約 0.3 秒間出力 (電源投入直後及び遮断直後) する場合があります。使用上問題となる場合には、あらかじめシステムで対策を実施してください。

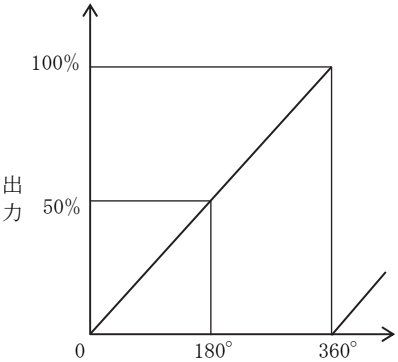
2.9 校正

本製品はあらかじめ出力調整されていますので、特に校正の必要はありません。
しかし、長年にわたる使用で出力がずれた場合には、以下の要領で調整してください。

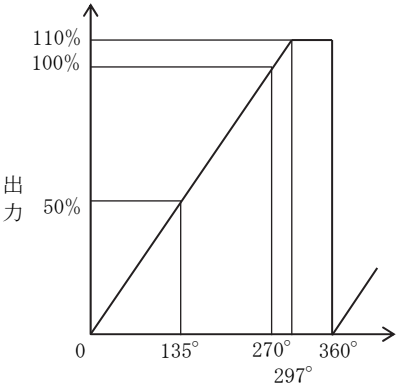
2.9.1 ZERO 調整

- (1) 出力負荷は実負荷（銘板表示負荷抵抗範囲内）又は、それと同等の抵抗値の模擬負荷を接続してください。
- (2) 補助電源（定格）と、セルシン発信機の一次入力を印加し、15 分間通电してください。
- (3) セルシンの現在出力値が、何度相当の出力が出ているか確認してください。

入力と出力の関係図



360° タイプ

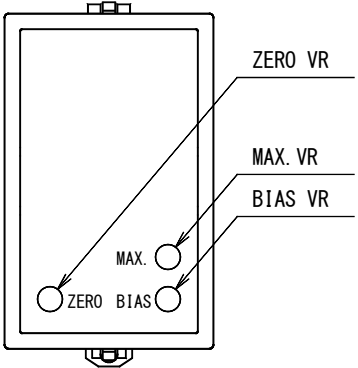


270° タイプ

出力の出る方向も必ず確認してください。

- (4) 本製品の出力が $\pm 60^\circ$ 以上の進み、遅れがある場合、次ページ図中のセルシン現在位置の結線に変更してください。
- (5) 本製品の出力が $\pm 30^\circ$ 以内のとき、ZERO VR にて調整します。
- (6) ZERO 調整
入力の下限值に合わせて調整してください。

＜注意＞ 270° タイプでは入力 0° 以下では、出力が振り切れ状態（360° 入力）となります。
したがって、上記より多少出力が出気味（0.5%～2%）になるように ZERO VR を調整してください。
（調整用ドライバー＝先端幅 1.8～2.3mm プラス又はマイナス スクリュードライバー）



2.9.2 BIAS・MAX. 調整

入力又は出力との整合には、表面パネル（前記）に BIAS と MAX. VR を備えていますので、これにより調整してください。（調整用ドライバー＝先端幅 1.8～2.3mm プラス又はマイナススクリュードライバー）

BIAS : $\pm 5\%$

MAX. : $\pm 5\%$

手順

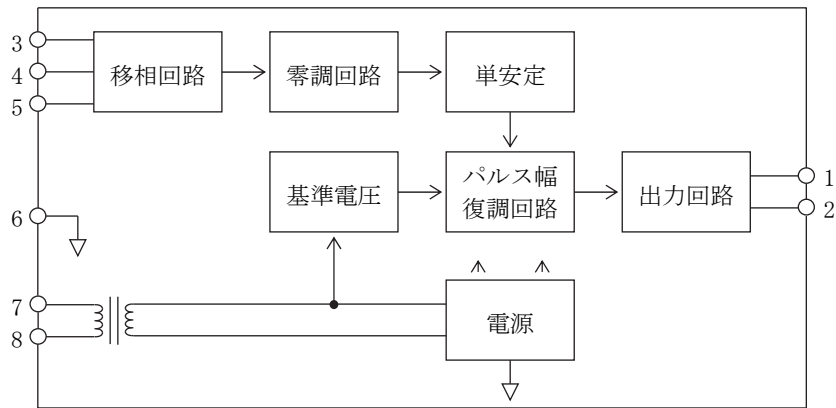
- (1) 入力 0° 相当を印加したとき、 0° 相当の出力となるように BIAS VR を調整します。
- (2) 次に、定格出力相当の入力（入力の上限値）を印加したとき、出力が定格出力になるよう MAX. VR を調整します。
- (3) (1), (2) を数回繰り返し実施します。
- (4) 最後に主要な各点にて直線性をご確認ください。

セルシントランスデューサ結線とセルシン零位置及び振れ方向の関係

セルシントランスデューサ端子番号						セルシン 現在位置	振れ方向	備考
7	8	3 (S1)	4 (S2)	5 (S3)				
セルシン 結線	R1	R2	S1	S2	S3	 0°	右・時計回転	標準結線
	R2	R1	S2	S3	S1	 60°		
	R1	R2	S3	S1	S2	 120°		
	R2	R1	S1	S2	S3	 180°		
	R1	R2	S2	S3	S1	 240°		
	R2	R1	S3	S1	S2	 300°		
	R1	R2	S1	S3	S2	 40°	左・反時計回転	
	R2	R1	S2	S1	S3	 100°		
	R1	R2	S3	S2	S1	 160°		
	R2	R1	S1	S3	S2	 220°		
	R1	R2	S2	S1	S3	 280°		
	R2	R1	S3	S2	S1	 340°		

3. 動作原理

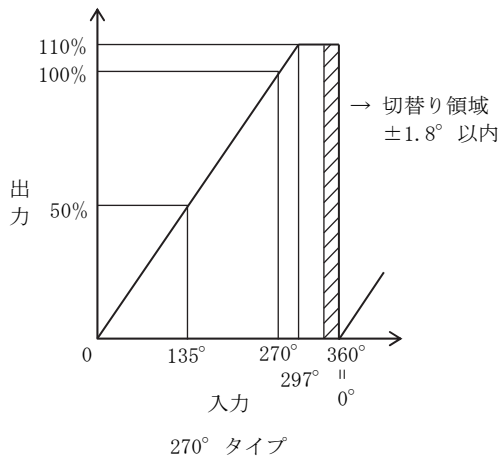
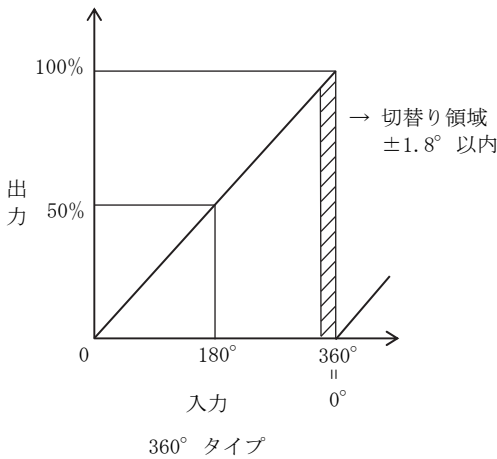
3.1 構成図



3.2 動作説明

セルシン発信機により入力された電圧が移相回路により合成された後、パルス出力に変換され、基準回路とのパルス幅を復調して必要電圧まで増幅し、出力としています。

3.3 入力・出力関係グラフ



4. 仕様及び性能

4.1 仕様

入力			出力（負荷抵抗）			補助電源		
セルシン信号	1	0～360° , 60Hz	1	DC0～100mV (200Ω 以上)	1	AC100V ±10%	消費 VA AC 電源 : 5VA 〔 電源周波数は入力周波数と 同じとなります。 〕	
	2	0～360° , 50Hz	2	DC0～1V (200Ω 以上)	2	AC110V ±10%		
	3	0～270° , 60Hz	3	DC0～5V (1kΩ 以上)	3	AC200V ±10%		
	4	0～270° , 50Hz	4	DC0～10V (2kΩ 以上)	4	AC220V ±10%		
	5	0～240° , 60Hz	5	DC1～5V (1kΩ 以上)	0	上記以外		
	6	0～240° , 50Hz	6	DC±5V (1kΩ 以上)				
	0	上記以外 (1)	7	DC±10V (2kΩ 以上)				
			A	DC0～1mA (10kΩ 以下)				
			B	DC0～5mA (2kΩ 以下)				
			C	DC0～10mA (1kΩ 以下)				
			D	DC0～16mA (600Ω 以下)				
			E	DC1～5mA (3kΩ 以下)				
			F	DC4～20mA (750Ω 以下)				
			0	上記以外 (2)				

注(1) 製作可能範囲（最大値）は 210° から 30° ステップで 360° までとなります。

注(2) 電圧出力は DC10mV～10V、電流出力は DC0.1～20mA までご相談に応じます。

標準仕様

項目	条件	
出力の外部調整	±5%調整可能	
使用温湿度範囲	-10～+55℃（年間平均温度 40℃以下），30～85% RH（結露しないこと）	
保存温度範囲	-40～+70℃	
外箱の材質	本体	ABS (V-0)
	ソケット	ガラス入り PBT 樹脂
外観色	本体、ソケット：マンセル N1.5（黒色），前面板：藍色	
質量	500g	
製品保証期間	製品納入後 1 年間	

4.2 形名指定事項

STP 1 - (1) (2) (3)

- (1) 入力（1 桁）
 (2) 出力（1 桁）
 (3) 補助電源（1 桁）

4.3 性能（周囲温度 23℃）

項目	条件		許容限度
許容差	主要な各点。出力スパンに対する%		±0.5%
応答時間	90%出力のステップ入力を加えたとき、最終定常出力値の±1%に納まる時間		1秒以下
出力リップル	出力スパンに対する P-P		1%P-P 以下
自己加熱の影響	直後（1～3分後）と 30～35分後における出力値の差		0.5%
温度の影響	23±10℃変化させたときの出力値の差		0.5%
補助電源の影響	定格電圧と定格電圧変動範囲の上限及び下限に変化させたときの出力値の差		0.25%
準拠規格	JIS C 1111：1989 に準拠		—
瞬時過負荷	入力電圧	定格電圧の 1.5 倍 10 秒間	異常なし
	補助電源	定格電圧の 1.5 倍 10 秒間	
連続過負荷	入力電圧	定格電圧の 1.2 倍連続	異常なし
	補助電源	定格電圧の 1.2 倍連続	
絶縁抵抗	電気回路一括と外箱（アース）間	DC500V	50MΩ 以上
	入力端子と出力端子間		
	入力・出力端子と補助電源端子相互間		
耐電圧	電気回路一括と外箱（アース）間	AC2000V（50/60Hz）1 分間	異常なし
	入力端子と出力端子間	AC1500V（50/60Hz）1 分間	
	入力・出力端子と補助電源端子相互間	AC2000V（50/60Hz）1 分間	
インパルス耐電圧	電気回路一括と外箱（アース）間	5kV 1.2/50μs（正負極性）各 3 回	異常なし
出力線間サージ	入力端子と出力端子間 600A, 8/20μs		異常なし
衝撃	X, Y, Z 方向に対し、490m/s ² の衝撃を各 3 回加える		0.5%
振動	X, Y, Z 方向に、振動数 16.7Hz、複振幅 4mm（約 19.6m/s ² ）の振動を各 1 時間加える		0.5%

4.4 ノイズ耐量

項目	補助電源
コモンモード	1500V
ノーマルモード	1500V

4.5 用語

(1) 標準試験状態

プラグインシリーズの試験は、下記の条件にて実施します。この状態との違いによる変動は影響とし規定します。

周囲温度：23±5℃

出力負荷：電流出力は最大負荷抵抗値の 1/2、電圧出力は最小負荷抵抗値の 2 倍

補助電源：定格電圧、定格周波数

ウォームアップ：15 分以上

(2) 許容差

標準試験状態において許容される百分率誤差の限界

誤差：出力基準値から出力の真値を引いた値

百分率誤差：誤差を出力スパンで除し%で示します。

(3) 影響

一つの影響量を基準出力から変えたときトランスデューサに生ずる出力変化。影響の限度は出力スパンに対する百分率で表示します。

(4) 出力リップル

入力が定常状態のとき、出力に生ずるリップルで、リップル分のピーク・ピーク値とスパンの比を百分率で表わします。

(5) 応答時間

入力がある一定値からほかの一定値に急激に変化したとき（ステップ入力という）出力が最終定常値の特性範囲内に納まるまでの時間です。



本 社 住 所：〒121-8639 東京都足立区一ツ家一丁目11番13号
(東京営業所) 電 話：03(3885)2411(代表)
FAX：03(3858)3966

京都営業所 住 所：〒610-0114 京都府城陽市市辺西川原1-19
電 話：0774(55)1391(代表)
FAX：0774(54)1353

作成 2022/2/24 Rev. C